

第2部 地域コミュニティに関するアンケート（町会未加入向け）

1. 調査の目的

町会未加入者が抱える未加入の理由や地域活動への意識，参加にあたっての障壁などを把握し，地域コミュニティの維持・活性化に向けた効果的な支援策を検討するための基礎資料とすることを目的に実施しました。

2. 調査の内容

- (1) 調査対象 町会に未加入の市民
- (2) 調査時期 令和7年(2025年)6月19日 ～ 令和7年(2025年)8月15日
- (3) 調査方法 WEB アンケート（市ホームページ，LINE，Instagramで周知）
- (4) 調査項目

項目	詳細	質問番号
回答者の情報	地域，年代，性別，世帯構成，住居状況，居住年数，就労状況	問1～問7
未加入理由	理由，町会の存在認知，勧誘の経験	問8～問10
印象・参加意識	参加しづらい理由，参加してもよい活動，参加しやすい関わり方，情報の受取	問11～問14
地域との関わり方	関わりに対する意識，関わりたい相手，改善してほしい点，今後の関わり方	問15～問19

3. 図表の見方

- (1) nは，回答数総数（または分類別の回答者数）をさします。
- (2) 単一選択（1つの設問に1つの回答のみ認めた設問）の場合，左端を0%，右端を100%とするグラフであらわし，各項目の比率はnを基準として計算しました。
なお，比率の計算にあたっては小数点第2位を四捨五入したため，必ずしも個々の比率の合計が100.0%にならない場合があります。
- (3) 複数選択（1つの設問に2以上の回答を認めた設問）の場合，各項目の回答数をグラフであらわし，各項目の比率はnを基準として計算したため，個々の比率の合計が100.0%を超えることがあります。（小数点第2位四捨五入）

4. 調査票の回収

回答数 65名

5. 報告書の作成

調査結果は，根室市町会連合会の協力のうえ，根室市市民生活部生活環境課が集計・分析のうえ報告書にまとめました。なお，町会や個人が特定される表現については適時語句の置き換えを行っていますが，記述の趣旨を改変することはありません。

(1) 低回収率が示唆する町会との心理的距離

本アンケートは、市公式ホームページ、LINE 公式アカウント、Instagram など、複数の媒体を活用して広く周知を行いましたが、回答数は限定的なものにとどまりました。

令和7年（2025年）8月時点でLINE・Instagramの登録者が延べ9,000人いることを考慮すると、これは、単なる周知不足や情報到達度の問題ではなく「町会」という存在そのものが生活の関心領域から徐々に外れつつあることを示していると考えられます。

特に未加入者にとっては「町会」という単位自体が既に自分の暮らしとは無縁のものとなっており、制度や仕組みを理解していないというよりも、そもそも考える機会がないという層が相当数存在するとみられ「地域と関わること自体を考えたことがない」「町会が何をしているのかを知らない」といった層に関心を持ってもらうためのアプローチが必要な段階に来ていることがうかがえます。

また、現代の生活は時間・空間・人間関係において、町会が誕生した時代とは比べものにならないほど流動的かつ多様化しています。

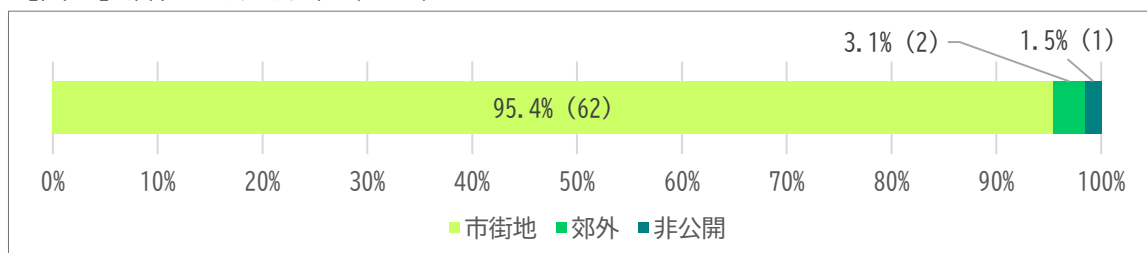
単身世帯や共働き世帯、育児や介護を抱える世帯、シフト勤務や在宅ワークなど、暮らしの形は人によって大きく異なり、地域との関わりや町会活動は、もはやすべての人にとって等しく重要なテーマではなくなりつつあることから、今回の回答傾向や非回答の状況からも、そもそも地域との接点を持たない生き方や、自身の生活のなかに地域という単位を組み込まない生き方が、一定程度選択されている現実が見えてきます。

(2) 住所分布

回答者の居住地をみると[図1]のとおり95.4%にあたる62名が市街地（地名に「町」とつく地域）に、3.1%にあたる2名が郊外（それ以外の地域）に居住しており、残る1.5%にあたる1名が非公開となっています。

このことから、本アンケートの結果は、市街地の生活スタイルや町会観を色濃く反映しているといえます。

[図1] 居住地域の分布（n=65）



(3) 年代分布

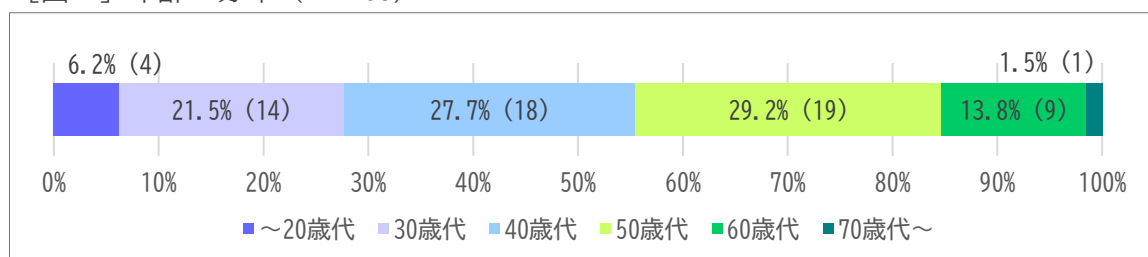
回答者の年齢層をみると〔図2〕のとおり、子育てや就労の中心年代である30歳代から50歳代が全体の78.4%を占めています。特に40歳代と50歳代が多く、全体の過半数(56.9%)を構成しています。

20歳代までの若年層は4名に留まり、70歳代以降の高齢層も1名と、極めて少数です。

これは、若手社会人は転居やライフスタイルの変化が多く、そもそも町会の存在を知らない、あるいは重要性を感じていない傾向が強いと推測されます。

また、70歳以上の回答がほぼ皆無であることは、現に町会の中心的存在が高齢層であるため、本調査の対象とならない層が多いためだと考えられます。

〔図2〕 年齢の分布 (n=65)

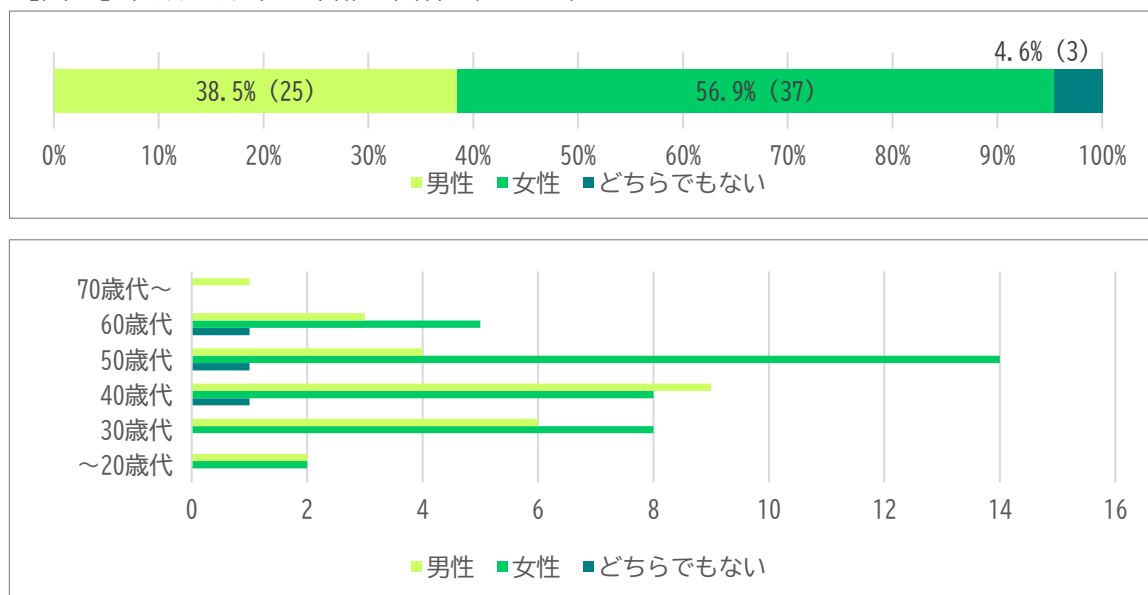


(4) 性別分布

回答者の性別をみると〔図3〕のとおり、男性25名(38.5%)、女性37名(56.9%)、どちらでもない3名(4.6%)となっており、女性が過半数を占めています。

年代分布とあわせてみると、男性は30～40歳代が6割を占める一方で、女性は30歳代が8名、40歳代が8名、50歳代が14名、60歳代が5名と、比較的厚みのある分布となっています。また、どちらでもないと回答した方は、40歳代・50歳代・60歳代にそれぞれ1名ずつ分布しており、若年層からの回答はみられませんでした。

〔図3〕 性別の分布と年齢の関係 (n=65)



(5) 世帯構成

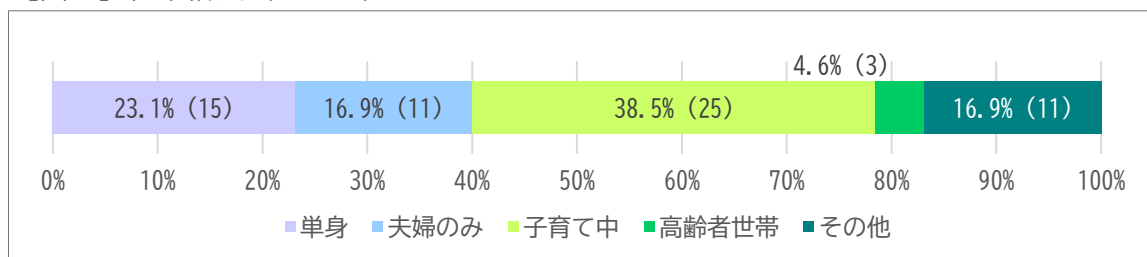
回答者の世帯構成をみると、[図4] のとおり単身世帯が15名(23.1%)、夫婦のみの世帯が11名(16.9%)、子育て中の世帯が25名(38.5%)、高齢者のみの世帯が3名(4.6%)、その他世帯が11名(16.9%)となっており、全体としては子育て世帯の割合が最も高いことがわかります。

子育て世帯25名の性別を見ると、男性12名、女性13名とほぼ差がなく、性別による偏りはみられません。

一方で年代別にみると、子育て世帯のうち20名は30歳代と40歳代に集中しており、就業や育児との両立による時間的制約が町会活動への参画に影響している可能性が考えられます。

また、その他世帯には「両親と同居」「夫婦と高齢者」「自立している子と同居」など、他の区分にあてはまらない複合的な形態が含まれており、ライフステージや生活状況が多様なため、従来のアプローチでは参加意欲を高めにくい層と考えられます。

[図4] 世帯構成 (n=65)



(6) 住居状況及び居住年数

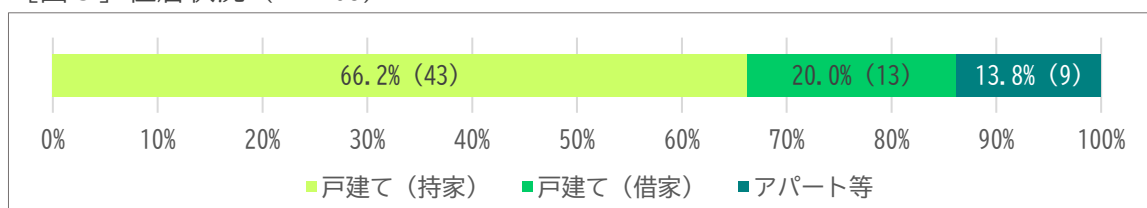
住居状況をみると、[図5] のとおり戸建て(持家)が43名(66.2%)と過半数を占め、[図6] によると、そのうち31名は10年以上同じ地域に居住しており地域に長く定住しているにもかかわらず、町会に加入していない実態が明らかになりました。

一方、戸建て(借家)は13名(20.0%)で、1年以上5年未満が5名、5年以上10年未満が3名、10年以上の長期居住者も4名と、借家でありながら地域に定住している層も一定数見られます。

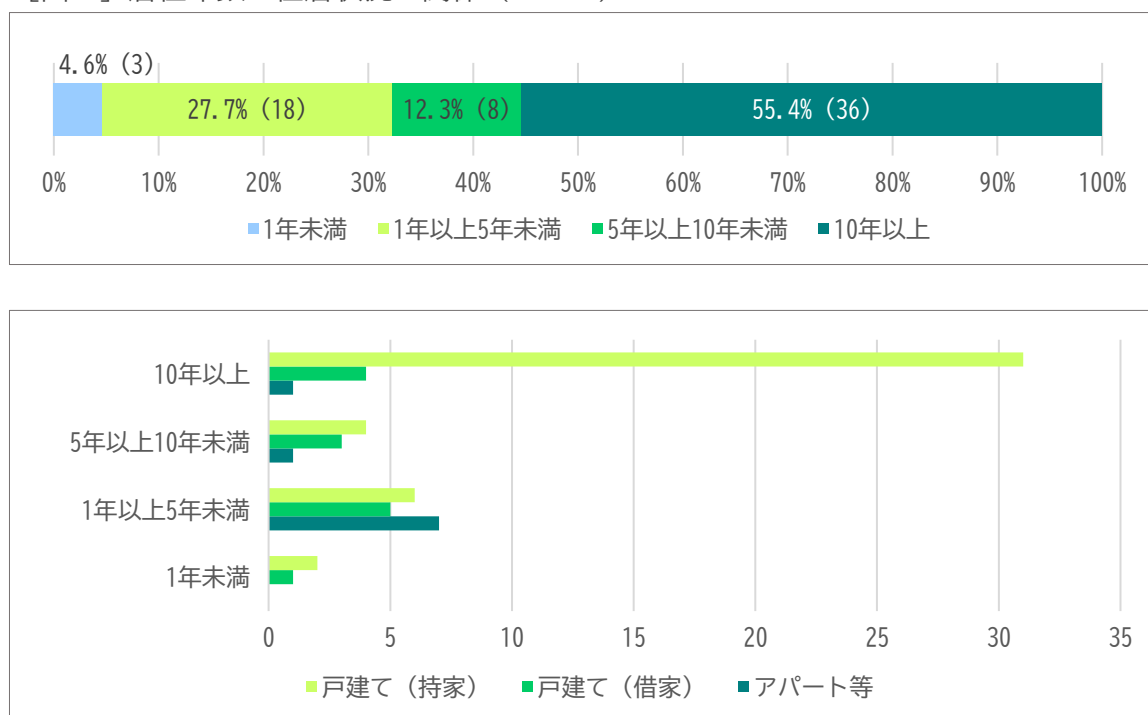
アパート等に居住しているのは9名(13.8%)であり、その大半が居住5年未満と短期居住の傾向が顕著です。

全体として、未加入者の55.4%にあたる36名が10年以上居住しており、必ずしも短期居住が未加入の主因ではないことが明らかになりました。

[図5] 住居状況 (n=65)



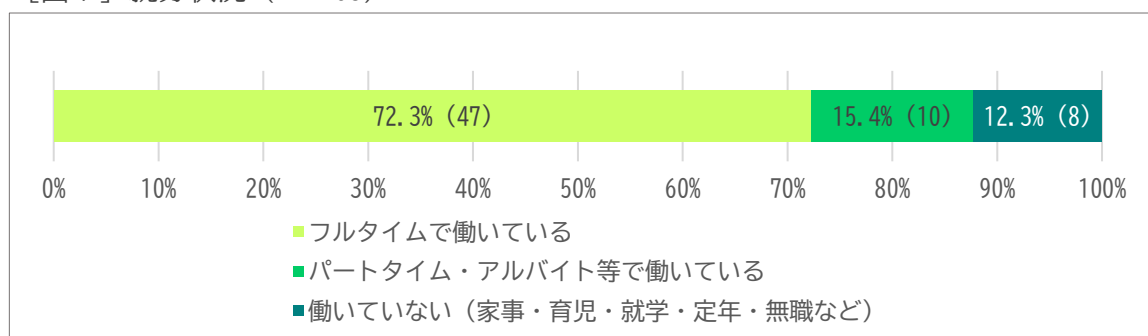
〔図6〕 居住年数と住居状況の関係（n = 65）



（7） 就労状況

未加入者の就労状況をみると〔図7〕のとおり「フルタイムで働いている」が47名（72.3%）と大多数を占め、次いで「パートタイム・アルバイト等」が10名（15.4%）「働いていない（家事・育児・就学・定年・無職など）」が8名（12.3%）となっており、多くがフルタイム就労者であり、時間的制約が大きいことが伺えます。

〔図7〕 就労状況（n = 65）



世帯構成別にみると,〔図8〕のとおり,フルタイム就労者の最多は「子育て中の世帯」で20名（42.6%）となっており,育児と仕事の両立に伴う多忙さが,地域活動や町会加入への心理的・時間的なハードルになっている可能性が高いと考えられます。

次いで「単身世帯」も12名（25.5%）となっており,仕事中心の生活スタイルを送りつつ,地域との接点を持たないライフスタイルを選択している層が一定数存在しているといえます。

パートタイム・アルバイト等で働いている層は10名と少数ですが、そのうち4名が子育て世帯、2名が夫婦のみ世帯となっており、家事や育児と両立しやすい働き方を選んでいることがうかがえます。

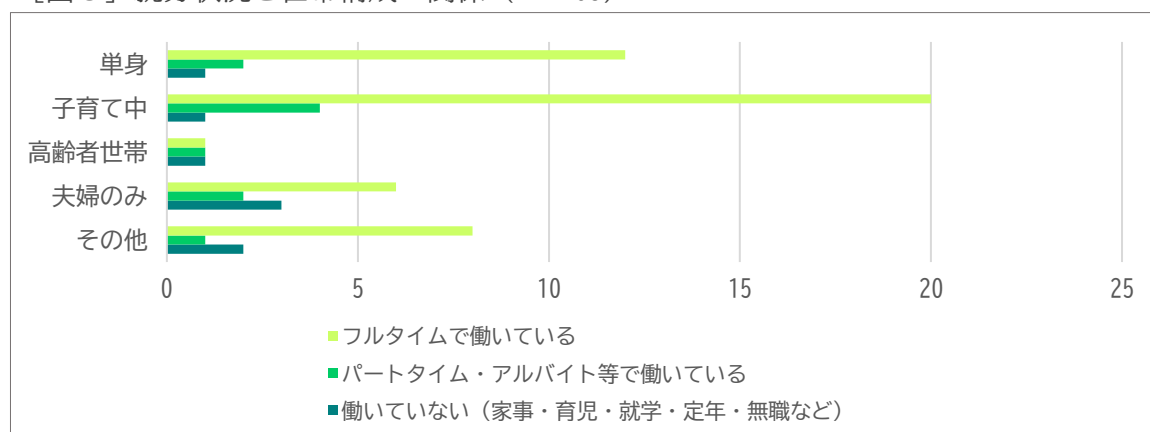
ただし、この層においても町会参加には消極的であり、家庭や私生活を優先したいという意識が強いことが推測されます。

一方で「働いていない」と回答した8名の内訳を見ると、夫婦のみ世帯が3名、その他世帯が2名、子育て中と高齢者世帯が各1名、単身1名となっています。

総じて、未加入者の多くはフルタイムで働く現役世代、とりわけ子育て世帯や単身世帯であり、仕事や家庭の事情から「町会に関わる余裕がない」と感じている層が中心であることが明らかになりました。

同時に、就労していない層であっても未加入が一定数存在することから、町会への加入・未加入は「時間の有無」だけではなく、制度的負担感や価値観の多様化が強く影響していると考えられます。

〔図8〕就労状況と世帯構成の関係（n=65）



(1) 町会に加入しない理由

町会に加入しない理由として最も多かったのは[図9]のとおり「必要性を感じない」(35件/53.8%)で、全体の過半数を占めています。

これは、町会の活動や必要性を日常生活の中で実感する機会がなく、加入することが本人の価値観や生活に結び付いていないとみられ、防災・防犯、環境美化といった活動が「自分には今すぐ関係がない」と受け止められている可能性が高いといえます。

次に多いのが「時間的な負担が気になる」(30件/46.2%)と「人間関係が煩わしい」(22件/33.8%)で、生活の中での負担感や心理的ストレスが加入を阻んでおり、特に現役世代や子育て世代など時間に制約のある層にとって、町会活動が柔軟に参加できない仕組みであることが課題となっていると考えられるほか、地域とのつながりをポジティブに感じていない層が一定数存在することを裏付けています。

「会費の支払いに抵抗がある」(15件/23.1%)や「活動内容を知らない」「町会の考え方や運営に違和感」(各14件/21.5%)は、制度面・心理面での不満を反映しています。

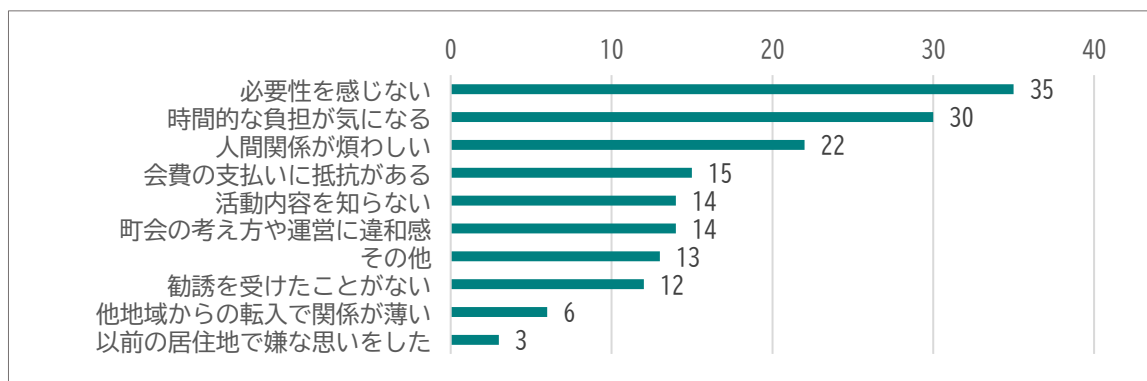
会費の用途や活動実態の不透明さ、または情報発信の不足が、加入のメリットを感じさせない要因となっていることがうかがえます。

「勧誘を受けたことがない」(12件/18.5%)、「他地域からの転入で関係が薄い」(6件/9.2%)は、新規転入者や未加入者へのアプローチ不足を示しており、潜在的に加入の可能性があるものの、町会側からの働きかけがなく、接点が生まれないままの層です。

また「以前の居住地で嫌な思いをした」(3件/4.6%)は少数ですが、過去の体験が心理的バリアとなり、その後の居住地でも加入を避ける傾向を生んでいます。

以上のことから、町会に加入しない理由として、「町会活動が生活に結びつきにくい」とことと「負担感・心理的抵抗」の2つが大きな課題であることがわかります。

[図9] 未加入理由 (n=65)



また「その他」の意見からは、選択肢に当てはまりきらない、より具体的で実務的な課題、不満が表れています。

「町内会が解散した」「町会がない」といった声から、一部地域では組織そのものが消滅しており、加入の可否以前に町会という選択肢が存在しない現実があるほか、高齢化や役員不在による自然消滅も見られ、今後も同様の地域が増える可能性があります。

また、業務の過重負担について「できる人にばかり班長が回ってくる」「高齢者が多く必然と順番が早い」「役員の押し付け」など、負担の偏在に関する不満が見られます。

特に、高齢化の進んだ地域では、限られた人員に負担が集中する可能性があります。

過去のネガティブ体験による離脱に関する意見もあり「嫌な思いをした」「非協力的な人がいた」など人間関係のトラブルや活動中の不快経験が離脱理由として挙げられており、加入後のフォロー体制や活動・運営のあり方に問題がある可能性を示しています。

「入り方がわからない」との意見は、町会の加入方法や連絡経路が不明確で、新規住民にとって敷居が高い現状を反映しており、加入意欲があっても行動に移せない層を生んでいる可能性があります。

[その他の内訳]

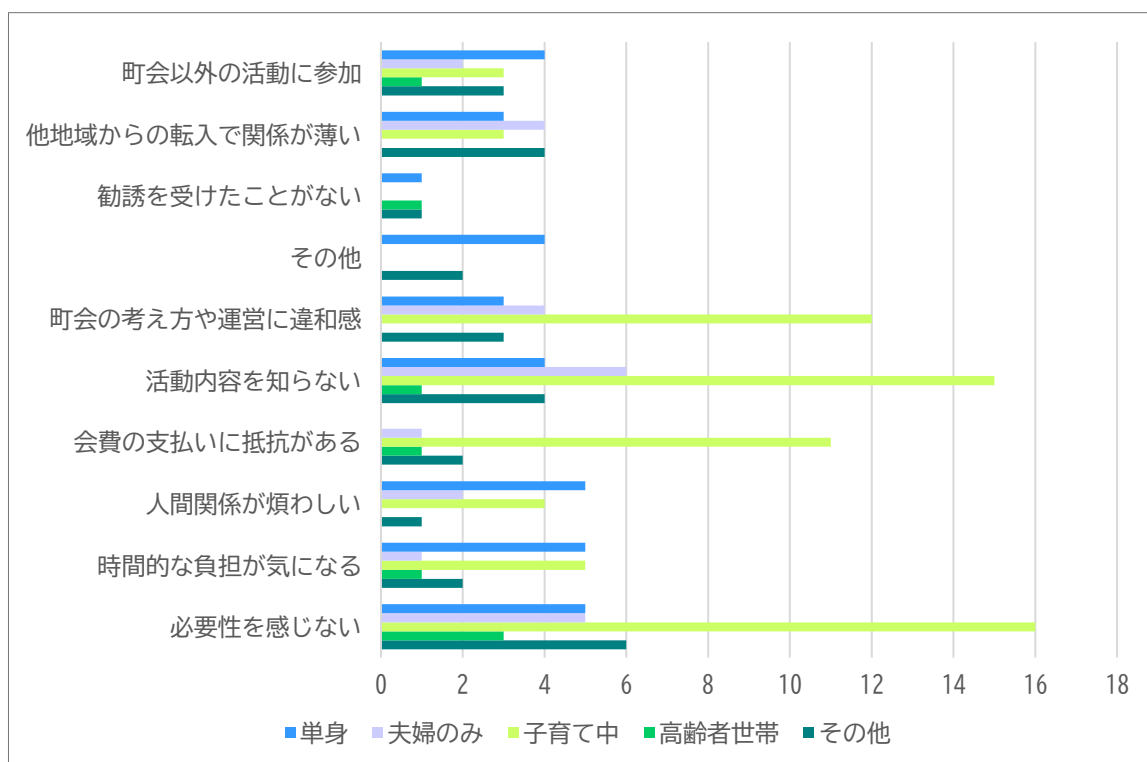
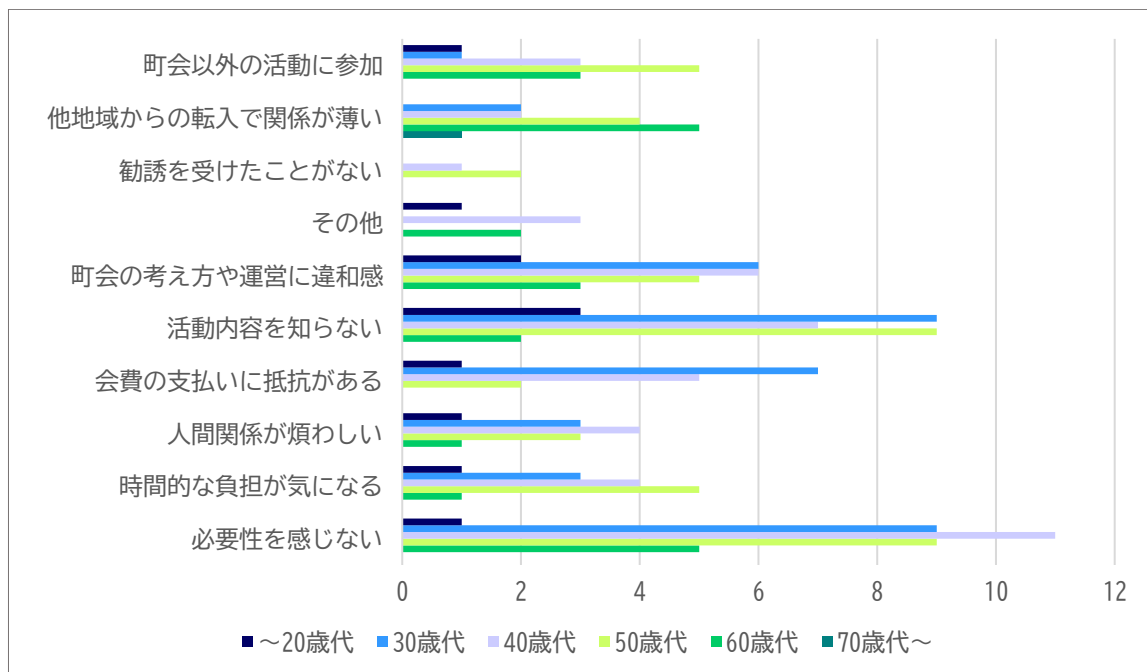
- ・近所の人でも加入していなく、入らなくても良いと言われた
- ・町内会が解散した
- ・役員をお願いされることが多くなると思われるため
- ・できる人にばかり班長が回って来る
- ・町内会に入っていたが、多忙にて出席してはなく、役員が高齢のため町内会がなくなったから
- ・回覧配りが大変。高齢者が多く回って来るのが早い
- ・高齢者が多く、必然と班長をする回数が多く、負担となり町内会を抜けた。残っているのは、班長を頼めなような年齢の方が多く、嫌気がさした。
- ・加入していたが輪番で班長に就任する時に嫌な思いをしたので辞めた
- ・町会のお手伝いをしたときに嫌な思いをした（非協力的な人がいた）
- ・役員の押し付けがありそう
- ・入り方がわからない
- ・町会がない
- ・班長，集金，配布，集会，会議

年代別にみると[図10]のとおり全世代に共通して「必要性を感じない」が最も多く、特に30歳代～50歳代で顕著だったほか、30歳代では「活動内容を知らない」「会費の支払いに抵抗がある」「町会の考え方や運営に違和感」も比較的多く、情報不足や制度面への疑問が加入の障壁となっている様子がうかがえます。

世帯構成別では、子育て世帯において「必要性を感じない」「活動内容を知らない」の割合が高く、町会活動の情報が十分に届いていないことや、活動目的が本人の生活との関連性を見出しにくい状況が示されています。

また、単身世帯では「必要性を感じない」「人間関係が煩わしい」「時間的な負担が気になる」が比較的多い傾向にあります。

〔図10〕 未加入理由と年代・世帯構成の関係（n = 65）



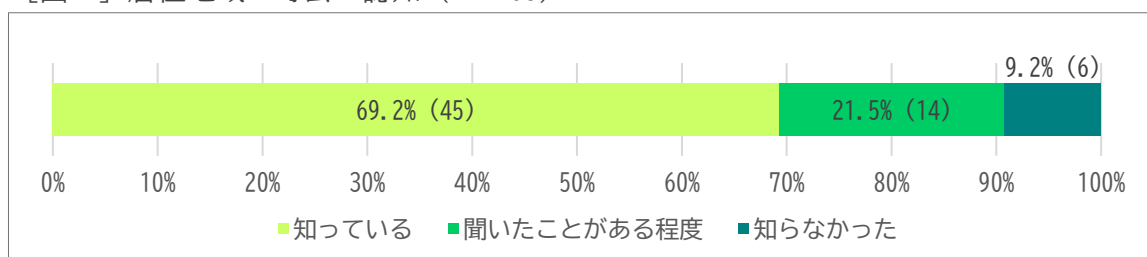
(2) 町会の認知状況及び被勧誘の経験

地域にある町会の認知度については〔図11〕のとおり「知っている」(45名/69.2%)と「聞いたことがある程度」(14名/21.5%)を合わせると全体の90.7%に達しており、ほとんどの回答者は町会の存在自体を認識しています。

ただし「聞いたことがある程度」が2割を占めることから、町会の名称や存在は知っていても、活動や役割については十分に理解していない層が一定数存在していると考えられます。

また「知らなかった」は6名(9.2%)で、地域活動の情報が全く届いていない層が少数ながら存在していることがわかります。

〔図11〕 居住地域の町会の認知 (n=65)

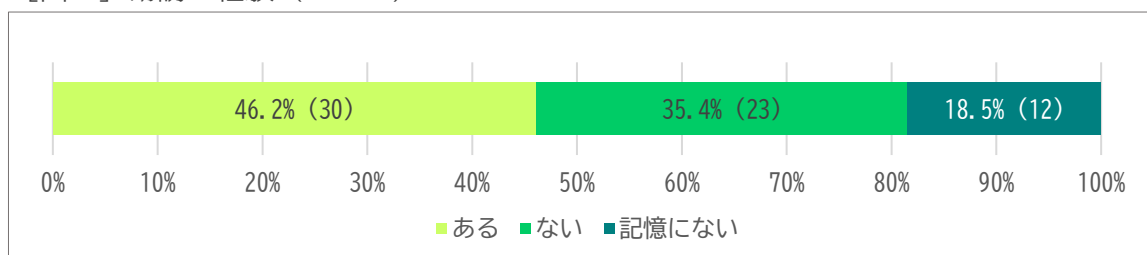


町会への勧誘をうけたことがあるかどうかについては〔図12〕のとおり「ある」が46.2%(30名)で、ほぼ半数は町会加入をすすめられた経験があります。

しかし、この層が現在も未加入であることから、勧誘はあっても加入には至らなかった理由(負担感・必要性の低さ・活動内容不明など)が背景にあると推測されます。

また「ない」が35.4%(23名)、「記憶にない」が18.5%(12名)で、合わせて過半数を占めており、町会が近隣住民全体に接触できていないこと、あるいは接触しても印象に残らない形になっている可能性があります。

〔図12〕 勧誘の経験 (n=65)



町会の認知と勧誘の経験は必ずしも一致しておらず「知っている」または「聞いたことがある程度」という認知層は全体の9割を占めますが、そのなかで勧誘経験がないと回答した人も存在し、認知層59名のうち「ない」「記憶にない」と回答した人は29名(49.2%)いることがわかりました。

また「知っている」+「勧誘経験あり」の層が一定数存在するにもかかわらず、全員が未加入であることは、勧誘内容や方法が加入動機を喚起できていないと考えられます。

(1) 参加しづらいと感じる理由

未加入者にとって最大の阻害要因は〔図13〕のとおり「時間が合わない」(32名)であり、回答者全体の約半数(49.2%)を占めています。

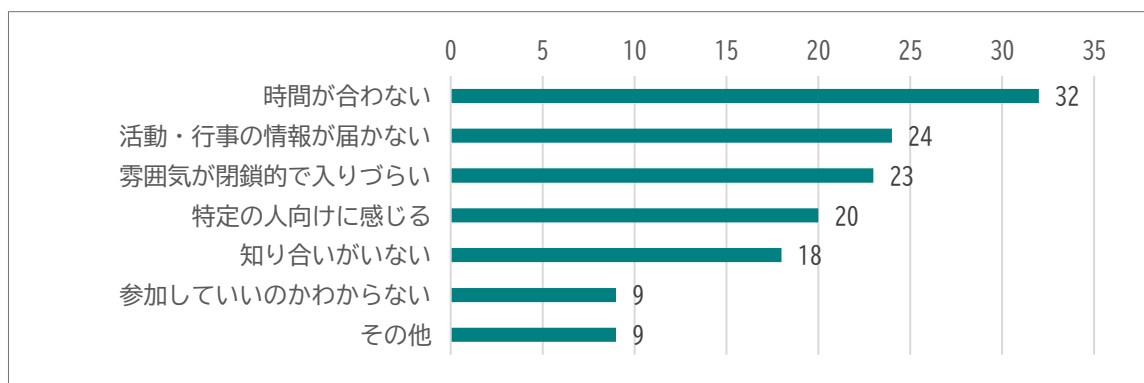
このうち20名(62.5%)は40歳代以下であり、特に現役世代や子育て世代では勤務時間や家事・育児などライフスタイル上の理由から日程調整が困難な状況が多いものと考えられます。

次いで多いのが情報不足による参加意欲の低下であり「活動・行事の情報が届かない」(24名/36.9%)「自分が参加していいのかわからない」(9名/13.8%)など、心理的なハードルの高さがうかがえます。

現在の町会運営においては、情報伝達の経路や方法が限られており、特に未加入者にはほとんど情報が届いていないことがわかります。

さらに、雰囲気や対象の限定感による心理的障壁も参加しづらい理由として挙げられており「雰囲気が閉鎖的で入りづらい」(23名/35.4%)「子供や高齢者など特定の人向けに感じる」(20名/30.8%)「知り合いがいない」(18名/27.7%)といった回答からは、町会活動は自分向けではない、輪に入りにくいと感じさせている可能性があります。

〔図13〕 参加の障壁 (n=65)



また「その他」の意見からは、制度や運営面での負担感、経済的負担、人間関係上の不安、関心や必要性の欠如といった要因が挙げられました。

具体的には、寄付金等が家計水準に見合わないと感じる経済的理由や、狭いコミュニティでの詮索や価値観の相違、参加時の嫌な経験といった人間関係に起因する不安もみられました。

さらに、町会の存在や活動そのものに必要性を感じない、あるいは加入していないために活動内容のイメージが湧かないといった無関心層の存在も確認されました。

[その他の内訳]

- ・ 加入していないので、参加しづらいかわからない
- ・ 必要性を感じない
- ・ 負担に感じる
- ・ 面倒
- ・ 町会がない
- ・ 地域の祭りの参加及び寄付金等、その地域の平均収入より下回る我が家には払える金額ではないので
- ・ 強制的な雰囲気があるのと、長く居住されている方々の意見や考え方についていけない
- ・ 年1度の集会、ビン・雑誌・紙の収集などのお金の流れ、役員の集会のお金の不安
- ・ 狭いコミュニティのなかであれこれ詮索されたくない。昼夜忙しく働いているので休みの日は休みたい

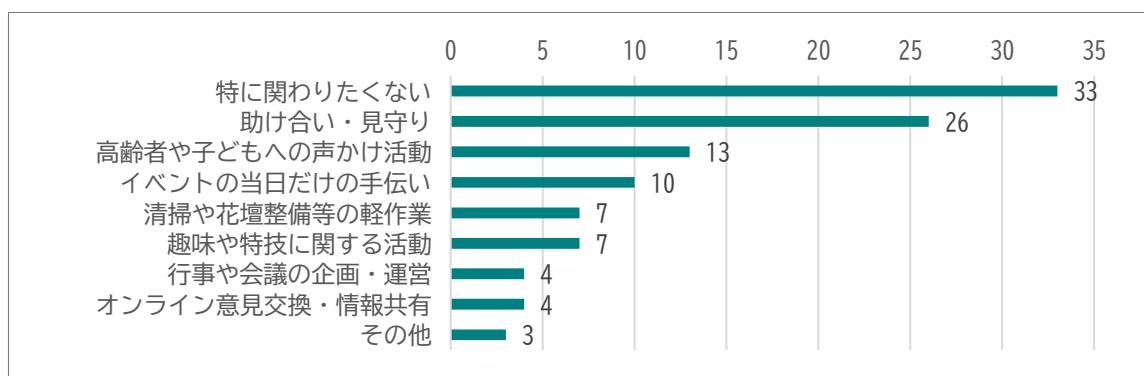
(2) 参加してもよいと思える活動

どのような活動であれば参加してもよいと思うかをたずねたところ〔図14〕のとおり未加入者の約半数（33名／50.8％）が「特に関わりたくない」と回答しており、そもそも地域活動に対する参加意欲が極めて低い層が大きな割合を占めています。

一方で「助け合い・見守り」（26名／40.0％）や「高齢者や子どもへの声かけ活動」（13名／20.0％）といった、比較的短時間で社会的意義が明確な活動には一定の関心が寄せられています。

また「イベントの当日だけの手伝い」（10名／15.4％）や「清掃・花壇整備などの軽作業」（7名／10.8％）のように、事前準備や継続的な関与を伴わない一回完結型の活動も一定の支持を得ており、ライフスタイルの制約がある現役世代にとって、時間の融通が利く点や心理的負担の軽さが魅力となっている可能性があります。

〔図14〕 参加してもよい活動（n=65）



[その他の内訳]

- ・ 主人の休みのたびに庭仕事や草刈り等、色々やる事があるにも関わらず天気にも左右されます。町内会の方に身体を持って行かれては思う様にはかどらない
- ・ 時間や休みが合えば参加可能だが必ずとはいえない
- ・ 町会がない

(3) 参加しやすいと思う関わり方

未加入者が地域の活動に対して、どのような関わり方があれば参加しやすいと思うかたずねたところ〔図15〕のとおり、最も多かったのは「負担が少ない・強制でない」で39名（60.0％）の回答者が参加の第一条件として、強制されないことを挙げています。

これは、役員や当番の負担、長時間拘束などの負担を避けたい心理の表れと思われ、従来の町会運営の在り方がハードルになっている可能性を示しています。

次いで「特に参加したいと思わない」が半数（33名／50.7％）を占めており、参加条件の改善だけでは動きにくい、活動そのものへの必要性を感じない層が一定割合存在することを裏付けています。

「自由参加型で出入りしやすい雰囲気がある」（23名／35.4％）や「短時間で終わる」（19名／29.2％）といった条件は、現役世代や子育て世帯など時間的制約のある層にとって、柔軟な運営が求められていることがわかります。

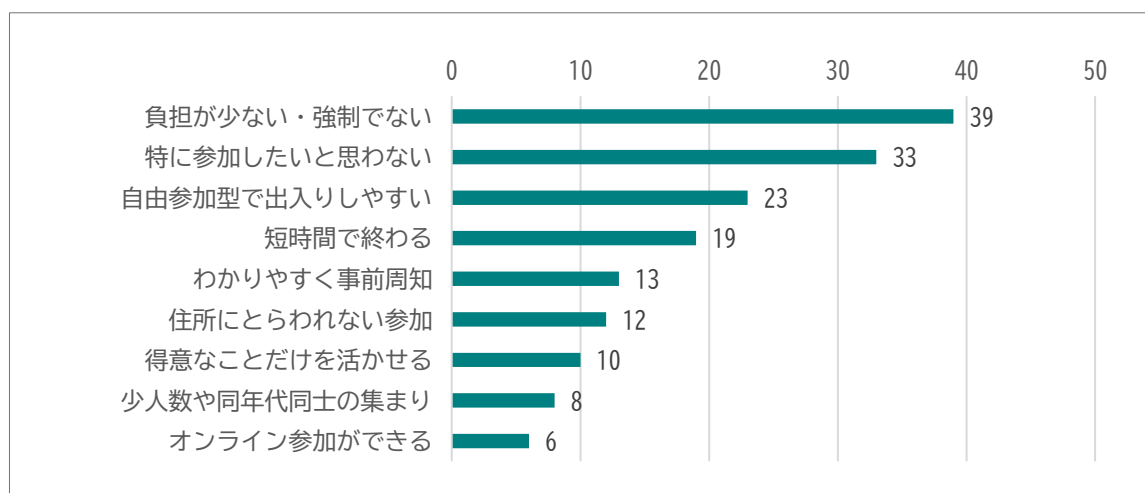
また「行事の内容がわかりやすく事前に周知されている」（13名／20.0％）や「住んでいる住所にとらわれない参加の仕方がある」（12名／18.5％）は、情報不足や住所単位での運営が参加の機会を狭めていることを示唆しており、町会の区分を超えた交流・活動により関わりを創出できる可能性があるといえます。

さらに「自分の得意なことだけを活かせる参加の仕方がある」（10名／15.4％）や「少人数や年齢の近い人同士の集まりがある」（8名／12.3％）は、役割の柔軟化や対象者の細分化が参加促進に有効であることを示しており、特にスキルや趣味を活かした関わり方は、従来の班長制や全員参加型の活動とは異なる魅力を提供できると考えられます。

なお「オンライン参加ができる」（6名／9.2％）は割合としては低いものの、距離や時間の制約を超えて関われる手段として今後の展開余地があります。

総じて、参加の自由度を高め負担感を減らすことが、参加促進の鍵であるといえます。

〔図15〕 参加しやすい関わり方（n＝65）



(4) 情報の受け取り方

町会活動や地域に関する情報をどのような方法で受け取りたいかについては〔図16〕のとおり、最も多い意見は「コミュニケーションアプリ」(41名/63.1%)で、LINEなどの個別通知型ツールが圧倒的支持を集めています。

これは、情報を「自分のタイミングで確認できる」「双方向のやり取りが可能」「既に日常生活で使い慣れている」という利便性が大きく影響していると考えられます。

次いで「町会や地域のSNS」(22名/33.8%)や「市の広報誌・SNSなど」(17名/26.2%)が続き、SNSを通じたりリアルタイム性のある情報発信が市の広報と地域独自発信の両面で一定の需要があることがわかります。

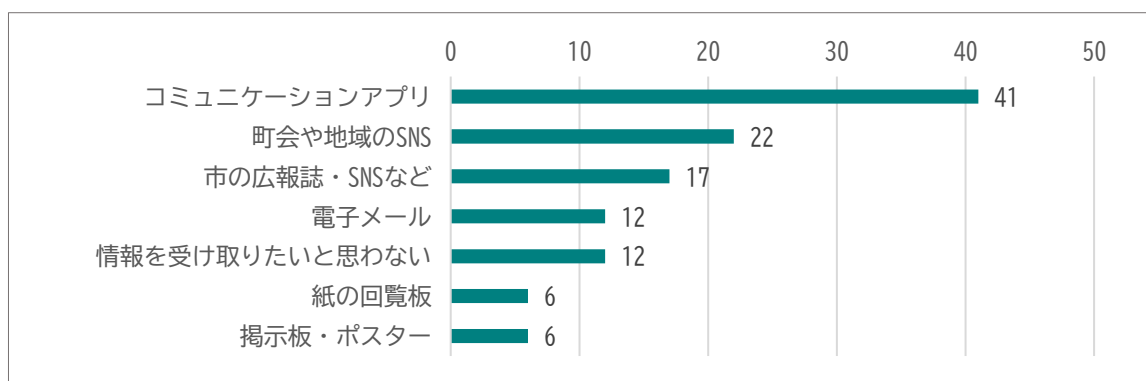
「電子メール」(12名/18.5%)も一定の支持を得ていますが、アプリやSNSに比べると日常的な利用頻度や即時性に劣るため、補助的手段としての活用が現実的といえます。

一方で「情報を受け取りたいと思わない」(12名/18.5%)層も存在しており、そもそも町会や地域活動への関心が低く、情報提供の改善だけでは関与を引き出しにくい可能性があります。

「紙の回覧板」や「掲示板・ポスター」(各6名/9.2%)も少数派であり、従来型の周知手段の影響力が限定的になっていることを裏付けています。

総じて、未加入者にとって町会・地域情報の受取手段としては「スマホなど身近なツールで完結できる方法」が最も支持されているといえます。

〔図16〕情報の受取手段 (n=65)



(1) 近所づきあいに対する気持ち

地域とのつながりや近所づきあいについての意識を尋ねたところ〔図17〕のとおり、「積極的につながりたい」と答えた人は1名（1.5％）にとどまりました。

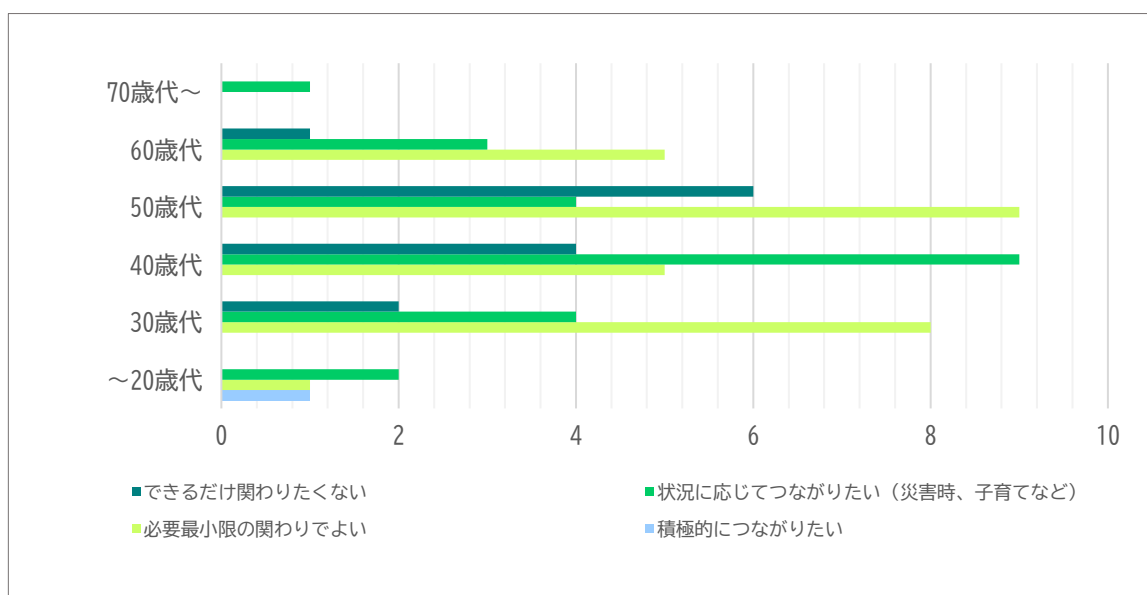
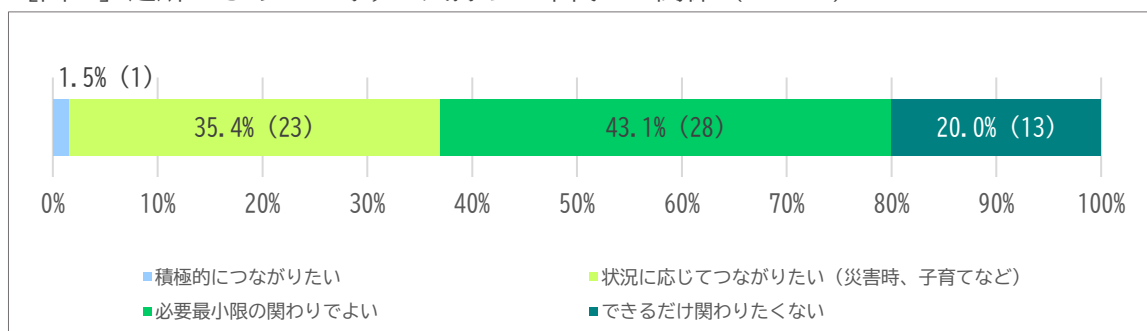
最も多かったのは「必要最小限の関わりでよい」という回答で28名（43.1％）、次いで「状況に応じてつながりたい（災害時、子育てなど）」が23名（35.4％）、「できるだけ関わりたくない」が13名（20.0％）という結果でした。

以上のことから、日常的に積極的な地域交流を望む層はごく少数であり、多くは「必要な場面に限って関わる」または「極力関わりを減らす」傾向が強いことがわかります。

特に「必要最小限」または「できるだけ関わりたくない」と回答した人を合わせると全体の63.1％を占めており、地域活動に対する心理的距離感は総じて遠いといえます。

また「状況に応じてつながりたい」とする層も、裏を返せば日常的な交流や恒常的な活動参加には消極的であることを意味しています。

〔図17〕 近所づきあいに対する気持ちと年代との関係（n＝65）



年代別にみると「必要最小限の関わりでよい」と回答した割合は 30 歳代と 50 歳代で特に多く、8～9 名となっています。

50 歳代は「できるだけ関わりたくない」と答えた人も 6 名と最も多く、地域活動への積極的参加には消極的な傾向が強い世代といえます。

一方「状況に応じてつながりたい」とする層は 40 歳代と 60 歳代で多く、特に 40 歳代では 9 名がこの選択肢を選んでおり、日常的な交流には消極的でありながらも、防災や子育てなど特定の場面での関わりには一定の関心を示していることがうかがえます。

(2) つながりたい相手

最も多かったのは [図18] のとおり「防災・防犯に関するつながり」で 23 名 (35.4 %) が選択しており、平常時の交流よりも、災害や防犯といった緊急性・必要性の高いテーマをきっかけとした関わりを望む人が多いことがわかります。

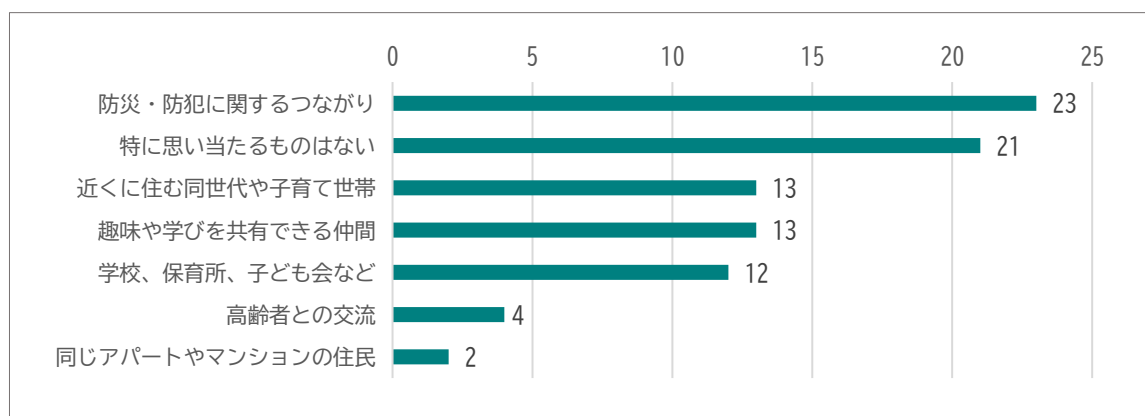
次いで多かったのは「特に思い当たるものはない」で 21 名 (32.3 %)。これは、そもそも特定の人との交流ニーズを持たない、または地域での関わり方に関心を持っていない層が相当数存在することを示しているといえます。

「近くに住む同世代や子育て世帯」や「趣味や学びを共有できる仲間」(各 13 名/20.0 %) も比較的多く、年齢やライフステージ、共通の関心事といった自分に近い要素を共有できる相手とのつながりには一定の需要があるといえます。

一方で「学校・保育所・子ども会など」(12 名/18.5 %) も同様に生活環境を共有する相手として関心が寄せられていますが、「高齢者との交流」(4 名/6.2 %) や「同じアパートやマンションの住民」(2 名/3.1 %) は少なく、日常的な近隣関係や異世代交流への志向は限定的であることがわかります。

総じて、関わりたい対象は「必要時に機能する関係」または「同質性の高い相手」に偏る傾向があり、地域全体を対象とする包括的な交流よりも、目的・属性が限定されたコミュニティ志向が強いといえます。

[図18] つながりたい相手 (n = 65)



(3) 改善してほしい点や気になっていること

町会や地域の活動に対して、町会未加入者が感じる「改善してほしい点」や「気になっていること」について、自由記述で回答を求めたところ、未加入者が町会参加や継続をためらう要因として、次の7つの障壁があることがわかりました。

1. 情報不足・案内不足

活動内容や加入方法が周知されておらず、未加入者が「何をしている組織なのか」「どう連絡すればよいのか」を知らないままになっています。

(1)で「必要最小限」「できるだけ関わりたくない」が多い背景には、そもそもの活動の価値や必要性が伝わっていないという問題があると推測されます。

寄せられた意見
・町会の必要性を教えてください ・案内はしてほしい ・よくわかっていないので、これから理解していきたい ・知らないのでなんとも言えない ・何も知らないのでわかりません ・去年まで入っていたのですが、いつの間にか回覧板も広報も回って来なくなりました。町内会が無くなったのでしょうか？ ・根室に引っ越して来たら一度だけポストに町会加入のチラシ（町内会全般向けの量販品と思われるもの）が入っていたが、各町内会への連絡先を記入すべき欄に何の記載も無く、たとえこちらに加入の意志があっても連絡の取りようが無い状態だったため、さして募集する気も無いのだろうと思っている ・町内会に入らなくてもこう言うイベント、災害等の助け合いなど兎に角チラシなりLINEなりでお知らせすると、どういう事をしているのかわかるし加入者も増えると思います

2. 班長・役員等の負担過多

当番制・班長業務が加入抑制の大きな要因となっています。特に現役世代には時間的制約が大きいほか、会員間での不公平感に対する疑問もあります。

(2)で「防災」や「同世代のつながり」には関心がある人でも、この負担感が心理的な障壁となり参加意欲を削いでいる可能性があります。

寄せられた意見
・班長の仕事が負担なのでやめた。班長をやらない人もいるので不公平 ・以前は町内会に参加していましたが当番制度や各家庭に会費を徴収、配布物を届けるのが大変です。車も運転できないのに荷物が多いので回覧板を回すのも面倒です。当番制度なので交代制なのは解りますが次に回ってくる事を考えたら苦痛なのでやめました。 ・以前加入していたが順番に班長当番が回ってくるのが煩わしい ・班長が負担だ

(次頁へ続く)

(承前)

- ・正社員で仕事をしている為、回覧板を期日内に回す事も難しい。班長の負担が多いのもネックだと思います。班長の集金業務や行事への強制参加もあると伺っているので入会はしたくないです。
- ・現役世代に会計係などを負担させる風潮があり、加入しづらい
- ・当番制で班長等をやるなら会費や雑巾集めで老人のお宅に回らなければならない負担があります。私たちが若い部類に入るかは分かりませんが仕事終わってからだと老人は寝ている時間なのでたまの休みの日曜日に伺ったりしなければならずその時に留守の場合何度も足を運ばなければならず、そういった理由から町内会に入ることを辞めました
- ・ここに住み始めた当初は町内会に入っていたが、ゴミ拾い、古紙回収、花壇整備など参加していたが、同じ班の人の参加が少ないし、班長になったら全部班長の負担になるのが嫌

3. 会費の使途への不信感

総会等での飲食への支出に対する疑問など、会費の使途への不信感が顕著です。

必要性の見えない費用負担は、未加入理由として強く作用していると考えられます。

寄せられた意見

- ・会費は振込にしてもらいたい
- ・会費も収支報告書に記載はあるが関わりのない事に使用されているしほぼ高齢者の集い。メリットはリサイクル用ゴミ袋が配布される事だけでした。一番は班長当番が面倒なのと会費が勿体ない理由で退会しました
- ・去年まで加入していたが、辞めました。町内会費、今はどのくらい残っているのか分かりませんが、辞める前はかなりの額が残っていたのに、それでも会費を払わなくてはいけない事に疑問を抱きました
- ・以前町内会に加入していましたが特に必要性を感じないことに毎年 2,000 円を払う事がよく分かりませんでした
- ・当初から町会に加入して活動の手伝いをしていましたが、コロナになって3年目から脱退したと思う！脱退した理由はコロナの期間何も活動もしないで会費だけは月 300 円、年間 3,600 円徴収するだけ！コロナで活動が出来ないのでなく、このようなときこそ町会が活動しなければならないときなのに何もしないで会費を徴収して、総会では飲み食い？馬鹿らしくなってやめました！当時はマスクの不足、ワクチンの接種申込（スマホ）から、町会の一人世帯に対する対応等！やれる事はあるのにやらない！こんな組織にいても無意味と思いやめました！
- ・町会費の使途も不明

4. 人間関係・雰囲気

既存会員同士の結束が強く、新参者が入りにくいとの意見があり、(1)で若年層に必要最小限志向が多い理由のひとつに、こうした閉鎖的な文化があると考えられます。

寄せられた意見
・ 役員が高齢者ばかりで頭が固く、合理的に進められない。 ・ 町内会長など実権を握っている人の独壇場みたいなもの。親睦会のようなものに参加した事がありますが、ジロジロ見るだけで声もかけられず空気がすごく悪かった。そんな場所に行きたく無いし、その費用の捻出の為に町内会費を使われるのも癪にさわる。 ・ 非常に閉鎖的で、昔からのやり方だけであり、時代にマッチしておらず、今のままであるなら、いずれなくなるモノと感じる。 ・ 閉鎖的な考え方が多い新しい事に 常に反対する ・ 若い人が加入・参加しない、と言うが、既会員同士のつながりが強いというか仲間意識が強すぎて、入りづらい雰囲気があるせいではないでしょうか。 ・ 活動にしても 20 代から 40 代あたりはペーペー扱いされ、こきつかわれ、年寄りには偉そうに口だけだしてくる印象。(昔はこうだった、など)昔は子供にも楽しいことあったと思うけど、今は特になにもないとおもう。 ・ ご近所でも挨拶を返してくれない等があると関わりたいとは思えない。 ・ 子供が小さい時は加入していましたが、募金やタオルの回収など半ば強制のような断りにくい印象が残っています。昔からの人がやり方もそのままなので受け入れにくかったです。 ・ 半強制的な役員

5. 活動内容

高齢者向けが中心で、若年層や子育て世代のメリットが薄いほか、自由参加しにくい雰囲気も指摘されています。

(2)で「同世代や子育て世代」「趣味仲間」に関心がある層にとって、現状の活動ではニーズを満たせていないことがわかります。

寄せられた意見
・ 去年やっと子供の為に盆踊りを開催してくれていましたが、それまでは子供には何もなくて、高齢者だけ敬老の日のお祝いが配られる事にも昔から疑問でした…町内会活動も大変だとは思いますが、隣近所とは良好な関係なので、必要性はまったく感じていません ・ 活動内容が分からないので特に気にならないです ・ 町会活動に参加することは良いが、自由に参加できる雰囲気がないと断りづらい ・ 何をやっているかわからないし、町会にヘンな人がいるので参加したくない ・ イベントなどはいらない ・ 焼肉パーティー、クリスマス会など家族ぐるみで手軽に参加できるとよい

6. 情報提供手段

紙の回覧板や玄関先の長話など、時代や生活様式に合わない手段が敬遠されているとみられます。

寄せられた意見
・ 情報周知 ・ 回覧板，必要性が感じられる内容がない。小学校のお便りを回覧板で回す必要ありますか？ゴミ袋を各家庭に届けるのも面倒でした。お年寄りでも，コンビニや商店，デイサービスにと外に出る事はあると思います。広報は必要な人が出先でもらえば良いと思う。 ・ 紙の回覧板，時代に合わないですね ・ 回覧板渡した時の玄関でやる長話が無駄なイメージ ・ 自分ではないが，高齢の方々の回覧板の廻す届けをどうにか迅速に改善してほしい。不自由な方々でも歩いて隣に置きに行く姿にヒヤヒヤします。

7. その他の意見

除雪やゴミ袋配布など生活支援への不満が寄せられたほか，町会を抜けても困らないとの意見もありました。

町会機能と行政機能の混同もあるものとみられることから，町会の役割を明確化することが求められます。

寄せられた意見
・ 除雪，草むしりなどは高齢者に配慮して欲しい ・ 元気で健康な人をあてにしてほしくない ・ 資源ゴミ袋は町内会に入居なくても貰えると聞いたが一度も配布を受けた事がない。平日は働いているため市役所に取りに行くのは大変だという現状です。 ・ 土地所有者の積極的な除雪。町内に土地を所有，多数貸しているのに自宅だけ会社社員を使って除雪，吹きだまりがあるのがわかっているのにしない。1度でもやってくれるのなら除雪費だと思って会費を払う。市が除雪を早くやらないから仕事に行く事が出来ない。冬の除雪は早くやれ ・ 町内会を抜けて何年も経つが困った事は何もないので，また入ろうとは思わない。

(4) 関わりたい場面・活動

今後，地域と関わるとしたら，どのような場面・活動で関わりたいと思うか自由記述で回答を求めたところ，日常的な関与よりも，有事の際や軽い関わりを好む傾向が顕著でした。

地域との関わりに対する意欲は全体として低いものの，条件次第で一定の関心を示す層が存在しています。

1. 防災・共助的活動

(2)の「防災・防犯に対するつながり」の志向からも，有事や防犯・防災活動など，いざという時への共助意識は高いことがわかり，未加入者が参加する動機として核となりえると考えられます。

寄せられた意見
・ 防犯活動 ・ ボランティア, 助け合い, 高齢者の雪掻き ・ 災害時等の1人じゃどうにもならない事態 ・ 災害時のための防災訓練など ・ 防災などの有事の際に必要な取り決めがある時

2. 交流・イベント

子ども向け, 家族で参加できる軽イベントや, 趣味・ペット関連など限定的な交流には一定の需要があることがわかります。

寄せられた意見
・ 子どものための活動であれば関わりたい (盆踊りなど) ・ BBQ 等のイベント ・ 運動サークル等があれば参加したい ・ ペットを飼っている人同士でのコミュニティなどがあれば嬉しい ・ 高齢者との会話が好きなので関われる場があると良いです

3. 条件付き参加

生活・仕事に影響しない範囲での自由参加, 内容・時間帯を選べる仕組みが求められています。

寄せられた意見
・ 自分の生活に影響の無い範囲で, 無理なく参加できるなら協力したい ・ せいぜいお隣さんが1人暮らしの場合は何かあれば頼って欲しい ・ 仕事が無い日 ・ 負担にならない程度の時間 ・ 活動内容によって考えたいので選びたい (時間帯や活動内容) ・ 求められるのであれば参加する ・ 手軽に関わりたい

4. 消極派

最低限の関わりで十分, 特定層との関わりを避けたいといった意識もありますが, 過去のトラブルや不快な経験が阻害要因になっている例もあることがわかります。

寄せられた意見
・ 会ったときに挨拶するくらいがいいです ・ これから先, 変化がないのであれば, 全く関わりたいと思わない ・ あまり人と関わりたいくはない ・ 近所づきあいはあるので参加しなくても大丈夫 ・ 地域と関わりたいとは思いますが老人と関わりたいとは思いません ・ 登下校時, 児童, 生徒達に気軽に挨拶等の声かけができる地域であってほしい。 現状は声かけなどしてはいけないと聞いている (次頁へ続く)

(承前)

・緊急時は致し方ないかと思いますが、ご近所でカラスや猫に餌を与える方が複数人いらっしゃったり、飼い犬をリードなしで連れまわしてその時服の裾を子供が噛まれたけど何事もなかったような感じの方がいらっしゃるの正直関わりたくはないです

(5) 関わりたいと思えるような仕組み

町会を含めた地域コミュニティ全般について「こんなかたちなら関わりたい」と思えるような仕組みについて、自由記述でお聞きしたところ、未加入者が関与しやすくなる条件として、次の5つの要素があることがわかりました。

1. 防災・共助的活動

有事対応を軸とした緩やかな組織が受容されやすいとみられるほか、防災・防犯は町会単独でなく広域的・連携型で実施する方が、参加意欲が高まる可能性があります。

寄せられた意見

- ・防災、防犯については町会単独でないほうがいいのでは？
- ・防災以外は特に関わりたいくないです
- ・災害時のコミュニティを作成するなど今後の災害に備えた活動であれば、みなさん加入すると感じます

2. 負担軽減・運営改善

回覧板の電子化、班長業務の外部委託、強制的な要素の排除や自由参加型の運営で加入ハードルを下げるのが求められています。

寄せられた意見

- ・回覧板を無くして LINE などにする。
- ・班長の持ち回りで町内会費の集金、交通共済の集金などは負担が大きいので、特定の人にバイトとしてやってもらったらいいと思う(もちろんお金を払って)町内会を抜ける人が多いのは班長になりたく無いため(集金などの負担が大きい)ため)と思う。回覧板も昔のように専業主婦が多い時とは違うので必ずしも家に居るとは限らないため何回も足を運ぶのは大変だと思う
- ・朝6時に除雪が終わっているなら会費を払う。班長、集金はやりたくない。集会もいらない
- ・強制的、当番制、担当がなければ考えてみたい
- ・強制的ではない町会が良い
- ・加入するメリットのあるコミュニティなら関わりたい
- ・毎回参加ではなく、自身が必要と感じた時の参加
- ・自由参加
- ・当日でも、初めてでも、参加しやすいなら、手伝えるなら参加してもよい
- ・市役所の LINE を登録していますが、お祭りなどの情報がくるのが便利です。参加するのは勇気がいるけど LINE がくるのはいいような気がします

3. 活動内容の再構築

若年層の意見反映，古い慣習の撤廃，家族・子育て世代が参加しやすい時間設定などそれぞれのニーズに沿った活動が求められています。

寄せられた意見
・若い役員を参加させて，意見を反映させる ・街を維持するのにかかるお金だけだせるならそれで済ませたい。あそこはいつも行事や手伝いに参加しないとか言われるくらいなら何もしたくないです。あえて言うのなら，町内会長が30代とか40代の若い方ならば若者は参加しやすいと思います。若者(とりわけ女性)の意見も大事にしてくださるのなら参加もしやすくなるのでは。シングルマザーも多いと思うので。 ・古いしきたりや既会員のこだわりが無く，誰もが自由に意見が言える環境であれば参加しやすいのではないかと思います。 ・週末に町会行事があると，夫婦共働き等の家庭は週末が家族団らんの機会でもあるため参加を躊躇うこともあると思うので，町会行事を平日開催にし，企業は『町会行事のための休暇』の取得を推奨するなど，官民が連携した取り組みを行うと有給取得率も上がるので良いのではないかと思います。 ・フリーマーケットなら若い世代も子供のお下がりの会等を通じて関わりたいのかもかもしれませんね。 ・沿道のゴミ拾いなど小規模なボランティア活動ならば可能。ただし，それらを回収する袋等は配布してほしい ・家の前の清掃 ・みんなでワイワイ話し合って決める事 色んなイベントを考える。会費はイベントによって増やしても OK

4. 消極派

生活圏内で満足な交流がある層への配慮や，そもそも関わりを望まない層に無理に関与しないことが求められています。

寄せられた意見
・良い改善案も浮かばないし必要ない ・町会に入る理由は何ですか？メリットも無いですよ？なぜアンケートをとってまで関わらせたいのか何か理由があるのですか？ ・老害のような老人が役員から集団で退くべきです，そうじゃないと若い世代が関わりたいと思うわけがない。その点も市役所は気づいてるんじゃないですか？ ・色々と集まっているようだけど，参加したら班長や役員をお願いされる事が煩わしい ・必要最低限でいいです ・基本関わりたくない ・実際町会のない地域に居住するも問題なく生活できている ・町内会に関係なく近所の方と交流があるので改めてはないです ・あまりイメージがわからない

5. 組織の再構築

趣味ごとの小規模コミュニティや、町会に縛られない地域づくりなど、並行的な選択肢の提示が求められています。

寄せられた意見
・自分の余暇を楽しむためのもの ・同じような趣味の人と関われるのが良いと思うが、一般的でない趣味では人口・町会加入率では難しいと思う ・町内会の温泉、食事などではなく、別な形で地域作りをしてほしい ・町内会にとられない集まり

(6) 地域との関わり方に関する考え方

(1) でみられた日常的交流への消極姿勢と、(2) で示された防災・同質的なつながりへの志向は、(3) ～ (5) の自由記述にも具体的な理由として表れていました。

調査結果から、日常的な交流を望む層は少なく、防災や子育てなど必要時に限定して関与したいと考える傾向が強いことがわかりました。

また、町会加入の阻害要素としては、当番制や過大な負担、情報不足、不透明な会費運用などの制度面課題に加え、閉鎖的な雰囲気や世代間の価値観の違いといった心理的課題も存在していることが読み取れます。

特に若年層や現役世代は、必要時のみ参加できる柔軟性や、ライフステージに応じた活動内容を重視する傾向があり、強制的要素の排除・参加方法の柔軟化・会費の透明化や活動の可視化が未加入層を引き込む鍵になると考えられます。

一方で、改善策を講じてもおお地域との関わりを望まない層も一定数存在するため、地域に縛られないコミュニティの形を模索することも有効であると考えられます。